【声に出して読む】

俳句

松尾芭蕉

一

古池や 蛙飛びこむ 水の音

ふるいけや かわずとびこむ みずのおと

夏草や 兵どもが 夢の跡

なつくさや つわものどもが ゆめのあと

荒海や 佐渡に横たふ 天の川

あらうみや さどによこたう あまのがわ

五月雨を 集めて早し 最上川

さみだれを あつめてはやし もがみがわ

【声に出して読む】 俳句 松尾芭蕉 二

閑さや 岩にしみ入る 蟬の声

しずけさや いわにしみいる せみのこえ

旅に病んで 夢は枯野を かけ廻る

たびにやんで ゆめはかれのを かけめぐる

初しぐれ 猿も小蓑を ほしげ也

はつしぐれ さるもこみのを ほしげなり

冬枯れや 鴨の足引く 氷の上

ふゆがれや かもあしひく こおりのうえ

【声に出して読む】 俳句 松尾芭蕉 三

秋深き 隣は何を する人ぞ

あきふかき となりはなにを するひとぞ

菜の花や 月は東に 日は西に

なのはなや つきはひがしに ひはにしに

蛤の ふたみに別れ 行く秋ぞ

はまぐりの ふたみにわかれ ゆくあきぞ

名月や 池をめぐりて 夜もすがら

めいげつや いけをめぐりて よもすがら

【声に出して読む】 俳句 松尾芭蕉 四

桜咲く 木の間を移る 影法師

さくらさくこのまをうつる かげぼうし

古道具 酒はおおらか 草の庵

ふるどうぐさけはおおらか くさのいおり

秋涼し 手毎にむきて 通草の実

あきすずしてもとにむきて あけびのみ

萤火や 小束の藻草 舟の跡

ほたるびや こづかのもぐさ ふねのあと

【声に出して読む】 俳句 松尾芭蕉 五

我が名をば 秋風の吹く 時雨かな

わがなをば あきかぜのふく しぐれかな

梅が香に のつと日の出る 山路かな

うめがかに のつとひのである やまじかな

閑かさや 椿落ちたり 石の上

しずけさや つばきおちたり いしのうえ

木枯しや 目に見えぬ海 波の音

こがらしや めにみえぬうみなみのおと